

平成25年度 学校自己評価システムシート (県立上尾橋高等学校)

目指す学校像 地域に根ざし、生徒一人ひとりを伸ばし、自立(律)して社会を支えられる人間を育てる。

重点目標	<p>1 基本的生活習慣を確立し、規律意識を高める。</p> <p>2 基礎学力の向上を図り、生徒の資質・能力を高める。</p> <p>3 進路指導の充実により、生徒の自己実現を図る。</p> <p>4 地域に根ざし、信頼される開かれた学校づくりを進める。</p>
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己目標					学校関係者評価		
年度目標			年度評価(月日現在)		実施日	平成 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	一部に、基本的生活習慣・社会的規範意識が身につけていないまま入学してくる生徒がいる。生徒の基本的生活習慣を確立するため、家庭との連携を深めつつ、きめ細かでスピード感を持った生徒指導を行う必要がある。また、社会を支えられる一員としての規範意識を身につけさせ、適切な判断能力を育てる必要がある。	○基本的生活習慣と社会的規範意識の向上 ○自立(律)意識を育てる生徒の主体的活動の活性化	①生徒情報を共有し、受容的な指導と毅然とした指導を使い分けながら、生徒と教員の信頼関係に基づく生活指導を強力に進める。 ②保護者・地域の声に耳を傾けながら、連携して効果的な生徒指導を進める。 ③学校行事をはじめとした生徒会活動や学校評価懇話会等を通じて、生徒が自主的に学校環境の向上を考える機会を設ける。	①生徒指導案件、身だしなみ指導を受ける生徒、無断欠席・遅刻・早退をする生徒は減少しているか。挨拶や礼儀正しい態度はとれているか。 ②地域から信頼を得られる具体的な対応はできたか。保護者との連携は徹底されているか。 ③生徒総会議案の討議、学校行事の運営、部活動、委員会活動、ボランティアへの参加等を通じて、生徒が主体的に関わる場面は多かったか。			
2	義務教育段階で基礎学力が十分でない生徒が少なくなく、「わかる」「できる」授業を展開する必要がある。一方で、本校での教育を通じて着実に学力を身につけている生徒たちも多いが、さらなるレベルアップを図る必要がある。	○多様な生徒に対応した基礎基本の徹底と、生徒の学力を伸ばす授業指導力(授業規律の確立)の向上 ○資格取得の活用や補習授業など、プラスαの学力をつける教育活動の推進	①ブラッシュアップ(国数の基礎力アップを図る授業)、「協調学習」、ICTの活用、身近な生活との関連付け、生徒の感想の活用、コミュニケーション能力育成など、多様な授業を進める。そのための授業研修も推進する。 ②「チャイム開始、チャイム終了の授業」を徹底する等、生徒に日常授業を大切に育てる。 ③資格取得できる機会や、プラスαの学力を身につけさせる補習の機会を設ける。	①授業研究と多様な生徒理解のための職員研修会の実施や、授業公開の機会は多かったか。また、教職員の努力が、生徒の学習評価や生徒の授業アンケートに反映しているか。 ②チャイム着席・始業は習慣化しているか。日常授業に取り組む姿勢は向上しているか。 ③資格取得できた生徒は多かったか。学期末欠点を解消した生徒は多かったか。進学等につながる補習の機会は設けたか。			
3	厳しい雇用環境ではあるが、分掌と学年が連携しながら就職希望者の内定率100%を維持している。進学を含め、一人ひとりに応じたきめ細やかな組織的取組が進められている。明確な進路意識を育てるため、進路について広く学ばせ、自己理解を深めさせる必要がある。保護者との情報共有を密にし、理解を得ながら、確実な進路決定につなげていく必要がある。	○生徒の希望を叶えさせる進路指導の展開	①進路部と学年との情報共有を徹底し、日常の個別進路相談を丁寧に行う。進路資料室の環境整備を行い、必要な情報を提供する。また、保護者への進路意識を啓発する活動にも取り組む。 ②校外での体験活動や見学会等を通じて社会の実情を理解させ、自己の将来について考えさせる。 ③進路ガイダンス、進路適性検査、実力テスト等を利用して、自己に対する理解を深めさせ、適切な進路実現を図る。	①職員間での進路情報や生徒情報は共有できたか。また、生徒・保護者に進路情報を積極的に発信したか。 ②体験活動等を進路指導に活かすことができたか。 ③進路ガイダンス等を通じて生徒に適切に指導できたか。就職や進学の本人の希望は実現したか。進路未定者は減少したか。			
4	校内では学年通信・学級通信等が多数発行されるなど情報発信は行われているが、外部に本校教育力の成果は十分に認知されていない。地域・保護者に、生徒の学校生活の活躍ぶりが、よりはっきりわかるような情報発信に努める必要がある。そのため校内組織の整備も必要である。	○機会を捉えたきめ細かい情報発信 ○生徒の成長ぶりが伝わる広報活動	①ホームページを活用した学校広報を推進する。防災マニュアルも含めて、緊急時の対応が迅速かつ的確にできるよう組織化する。 ②力をつけてきている生徒を通じて、本校の教育力の高さを理解してもらえるように努める。 ③保護者や地域と連携した活動を推進する。	①ホームページの内容は充実していたか。更新回数は多かったか。日常的な啓発情報の提供や、緊急時の対応は準備できたか。 ②学校評価懇話会や学校説明会の場で、本校生の成長が実感できるような対策は行われたか。 ③高校生就労体験活動、修学旅行、異校種間連携、校外美化活動、東北ボランティア等の体験活動は充実していたか。学校での努力が、行事等の保護者来校者数や、保護者アンケートの評価に反映したか。			

学校関係者からの意見・要望・評価等